第５学年　総合的な学習の時間　学習指導案

指導者　　○○　○○

１　単　元　　はやめっ子　高齢者パワーアップ大作戦

|  |  |
| --- | --- |
| 教材は | 　本単元では、「校区の一人暮らし高齢者訪問」を教材として取り上げる。　本教材には、国や市町村が抱える高齢化社会の問題点についての理解を深めながら、「校区の高齢者を笑顔に」という目的に向けて自分たちにできることを考え、行動化していくことで、高齢者を支える地域の方々のはたらきを理解し、自分もその一員として、今後の地域社会とのつながり方について考え続けることができる良さがある。 |

２　指導観

|  |  |
| --- | --- |
| 子どもは | ○　問題に対して解決の見通しを立て、活動の目的を意識しながら問題解決に取り組むことができようになってきている。また、調べたことなどから事実を整理して、そこから自分の考えをつくることができるようになってきている。○　本単元に関しては、第４学年総合的な学習の時間などにおいて、校区にある高齢者施設を訪問し、高齢者への接し方や態度について学習してきている。ただし、旧駛馬南小学校と旧駛馬北小学校の児童には学習してきた内容に差がある。 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元構成における体験活動と交流活動の位置付け | 〈体験活動と交流活動Ⅱ〉つながる段階【 体験活動 】① 高齢者訪問を行う② 体験により得た気づきや考えを付箋に書く【 交流活動 】① KJ法により分類整理する② 今後のかかわりについて自分の考えを意見交換する③ 自分のかかわり方を再構成する〈体験活動と交流活動Ⅰ〉調べる段階【 体験活動 】① 高齢者疑似体験を行う② 体験で得た気づきを付箋に書く【 交流活動 】① 体験で得た気づきを出し合う② 班ごとにKJ法で分類整理する③ 班ごとに考えられることと疑問点をまとめる中心となる体験活動と交流活動

|  |  |
| --- | --- |
|  | 単　元　構　成　の　概　要 |
| 出合う | ２０年後の未来を予測する活動から、日本が未来に抱える大きな問題点の１つに高齢化があることを知り、駛馬校区の高齢化率の高さや高齢者の身体の疑似体験を通して、「校区の高齢者の現実を知って、高齢者を笑顔にするために自分たちにできることを考えよう」という学習課題と出合う。 |
| 調べる | 　知りたいことを出し合い、整理し、校区の高齢者のことを知っているかもしれない人々（見守り隊・民生委員・公民館長・介護施設の方・地域の商店の方）にインタビューするための依頼文を考え、依頼し、GTとして来てもらったり、インタビューに出向いたりする。そして、高齢者の生活の現実や思いや願い、それを支える地域の人々の思いや願いを明らかにする。〈体験活動と交流活動Ⅰ〉わかる段階【 体験活動 】① インタビュー活動を行う② 得た情報を付箋に書く【 交流活動 】① ピラミッドチャートで分類整理する② 事実からわかること、自分の考えや意見を交流する ③ 高齢者の現実とそれを支える人々の思いを結論づける |
| わかる | 　地域の方から集めた情報をもとに、高齢者を少しでも笑顔や元気にするために、自分たちにどんな関わりができるのか考えたことを意見交換する。そして、民生委員の方をお呼びして、自分たちの考えを伝え、実現のために必要なことを相談する。その中で民生委員の方に協力をもらい、実際に高齢者のお宅へ訪問することを決定する。 |
| つながる | 　訪問に向けて、民生委員の方へ協力依頼の手紙を作成し伝える。また、訪問までの準備の計画を立てる。実際に訪問したときの内容や接し方を考えて練習する。訪問後に、実際に高齢者と触れ合ったことで見えてきたよりよい高齢者との関わり方を交流し、今後の関わりについて考える。 |

 |

３　目　標

○　地域の方から得た校区の高齢者についての情報を、「わたしたちにできることは何か」という観点で適切に分類・整理したり、整理したことから、高齢者の抱える不安や願いについて理解したりできる。

（知識・技能）

○　高齢者を笑顔にするという目的で、関わり方について、どの関わり方がよいか比べたり選んだりして、相手の状況や気持ちに合わせた関わり方をすることが大切であると気づくことができる。

（思考・判断・表現）

○　校区の高齢者を笑顔にするという目的に向かって、GTや地域の方、高齢者の方に積極的に関わった

り、地域を支える一員として、自分にできることを考え、実行に移すことができる。

（学ぶ力・人間性）